

# 香大っこサポーターの育成と活躍 ～両立支援における地域との協働～

長 安 めぐみ (男女共同参画推進室 コーディネーター)  
石 井 明 (工学部・男女共同参画推進室 副室長)

## 1. はじめに

香川大学では、平成22年度より女性研究者研究活動支援事業（旧女性研究者支援モデル育成事業）の採択を受け、男女共同参画推進室が中心となって、全学の男女平等施策を進めてきた。本学は、平成22年に次世代育成支援対策推進法に基づく認定企業として「くるみん」の認定を受け、同法に基づき行動計画の第3期に取り組んでいる。早期から子育てとの両立への支援施策が施され、子育て等に取り組む教職員にとって、働きやすい職場としての土壌を持っている。それを補完する形で、男女共同参画の視点に立った環境づくりの一環として、子育て中の教職員の教育研究や業務と家庭との両立支援施策を計画し実施した。

本題の「香大っこサポーター」は、学内に組織した学生のボランティア組織である。学内での託児事業の補助的な役割を担う託児サポーターとして、教育学部の幼児教育や特別支援教育の養成課程の学生の協力を得て、平成22年度から組織された。その後、男女共同参画室が、独自の養成・登録のシステムを構築し、平成25年現在までの3年間、取組を継続実施してきた。今では、対象学部範囲を広げ、5学部から32名の男女の学生が登録しており、活発な活動を展開している。また、その活動内容の幅も年々広がっており、学内の短時間の一時保育や大学入試センター試験時等の教職員の休日出勤時の託児、小学生を対象にした夏季開催の児童サマースクール（短期学童保育）、学内の学会時の託児、大学のイベントに参加する子どもたちの支援など、活動は多岐にわたっている。

香大っこサポーターの養成については、休日出勤時の託児を担当する、民間の託児ボランティア「あゆみ」<sup>1)</sup>との協働で行ってきた。託児に関する基礎知識の習得や実際の託児の体験学習では、地域の乳幼児と保護者が大学に足を運び、学生に体験の機会を提供している。本活動は、大学と民間、学生と市民との協働の取組としても注目を集めており<sup>2)</sup>、地域の子育て支援を担う人材育成としても期待されている。平成25年度には、「地域子育て支援士（二種）」（NPO法人子育てひろば全国連絡協議会認定）の資格を、香大っこサポーターの有志4名が取得するという成果にも繋がった。

本実践記録は、教職員の両立支援のサポーターとして立ち上げた「香大っこサポーター」の育成の歩みとその活躍の状況を報告し、今後の本学における両立支援における地域との協働と、そこに参画する学生への教育効果の可能性をまとめた。将来、ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）を実践できる社会人として、男子学生も女子学生も、実際の育児に取り組む先輩との交流は、大きな力になると考えられる。本稿は、香大っこサポーターの今後の更なる豊かな活動の展開を期待し、その取組の詳細を記録したものである。

## 2. 香大っこサポーターの育成の歩み

香大っこサポーターの登録状況を表1に示す。平成23年度よりホームページ上に登録システムを構築し、希望する学生の便宜を図ってきた。また、登録継続については、年度が変わる度にメールで継続の意志の確認を行っているが、学生のメールアドレスの変更により確認が取れなくなることも多い。養成に関しての紹介や説明は、全学共通科目“人生とキャリア”や男女共同参画推進室員が担当する講義等でも行い周知を図ってきた。

表1 香大っこサポーター登録数の推移

	新規登録者数	登録継続者数	総数	活動実績
平成22年度	14名	—	14名	なし
平成23年度	11名	7名	18名	サマースクール
平成24年度	8名	11名	19名	サマースクール・個別託児・センター入試時託児
平成25年度	24名	8名	32名	サマースクール・個別託児・学会時の託児 センター入試時託児 地域子育て支援士2種取得

### (1) 平成22年度 特別支援教育

香大っこサポーターの養成は、本学の女性研究者研究活動支援事業<sup>3)</sup>の一つである「学生を活用した託児ボランティア組織の検討」を実践に結び付けたものである。本事業の初年度の平成22年11月に実施した「学内緊急要望アンケート」（回答63名）において、本学の教職員に大学施設内での託児の実施に際して意見を求めたところ、センター入試における休日出勤時の託児を是非とも実現してほしいとの意見が寄せられた。そこで、大学本部の近隣の元保育園施設（薬王寺が運営）に協力を依頼し、一時保育場所を確保するとともに、教育学部の幼児教育と支援教育の担当教員に協力を求め、子どもの基礎的な知識や実習経験のある学生に手伝いを依頼した。その結果、14名のボランティアの学生を集めることができた。しかし、託児希望者を学内で公募したところ、周知の時期が遅かったこともあり希望する教職員が1名であったため、結局、託児は実現しなかった。この際、多忙な学生にボランティアを依頼することの難しさや香大っこサポーターの活動目的の分かりにくさ、教育面の効果、コスト面で学内託児の実施の課題が見えてきた。

### (2) 平成23年度 香大っこサポーター養成講座の開催

平成23年度は、前年度の経験を踏まえ、男女共同参画推進室が主催し、学生のサポーター養成講座を企画した。これは、学内の託児利用該当者へ制度周知も兼ねており、全学メールや学生へチラシを配布し広報に努めた。しかし、香大っこサポーターの具体的な活動の実績が全く無く、託児サポートの目的が分かりにくかったためか、講座の参加者は今一つで11名に留まった。講座の内容を表2に示す。学内外の専門家に協力を依頼し充実した内容になった。また、講義等で計画した講座に参加できない学生も多かったため、本講座の様子をDVDに編集し、講座に参加できなかった学生へ貸出し、DVD視聴による受講ができるようにした。

表2 養成講座実施内

平成23年 6月1日(水)	香大っこサポーターの活動と個人情報 の保持	男女共同参画推進室 長安コーディネーター	サポートの前に気を付け たいこと
	講座① 仕事も家庭も、安心して続けるために		男女共同参画と両立支援 の整備の必要性
6月29日(水)	講座② 子どもの発達とあそび	香川大学教育学部 松本博雄 准教授	子どもの発達の基礎
	講座③ 大学研究者の仕事と研究そして暮らし	香川大学農学部 野村美加 准教授	女性研究者の研究活動の 実際
7月6日(水)	講座④ 子どもと楽しく安全に過ごすために	託児ボランティアあゆみ 梶ヶ谷眞知子さん	託児活動の基礎知識
	講座⑤ 共稼ぎ家庭のイクメンパパのとりくみ	香川医療生活協同組合 法人本部組合員活動部 岸本大助さん	男性の子育ての参画
	講座⑥ 子どもの病気と看護基礎知識	へいわこどもクリニック 病児保育はとぼっぼ 増本正子さん 大江久海子さん	子どもの病気の基礎知識・ 病児保育について

### (3) 平成24年度 香大っこサポーターフォロー講座の開催

平成24年度は、新たに養成講座は開講せず、登録を希望する学生に、個別に順次DVDを貸出し、受講を促し8名が登録した。また、センター入試の託児に香大っこサポーターが参画するようになったため、その対応として、登録者に向けてフォロー講座を実施した。

表3 フォロー講座実施内容

平成25年 1月11日(金)	フォロー講座 「初めて会った子どもと楽しく安全に 過ごすために」	託児ボランティアあゆみ 梶ヶ谷眞知子さん	センター入試時等での子 どもの一時預かりの際の 危険防止・安全管理・遊 び方のコツ
-------------------	--	-------------------------	--

\*\*\*現場の声\*\*\*\*\*

#### ○香大っこサポーターの養成と活動の現状

人が学ぶ上で、どんな場で学ぶのかということは、学びの内容に決定的な影響を与えます。このことを大学教育の文脈で言いかえれば、学生にどんな学びの場を提供できるのかというかたちで言い換えることができます。

大人の思い通りに動くわけではない「子ども」についての学びを深める上では、座学に加え、実際に子どもと向き合う経験が大きな手応えとなります。そのような意味で、男女共同参画推進室によって平成23年度より準備された「香大っこサポーター」の活動は、本来の目的である育児支援を超えて、学生にとって有益な学びの場として成り立つ可能性をもった活動だと感じます。平成23年度は11名、24年度は8名と、まだその数は多くはありませんが、教育学部だけではなく、経済学部や法学部、農学部の学生からなる多様な仲間と、夏のサマースクールやセンター入試の託児、一時保育等に力を尽くしてくれました。

男女共同参画推進室の活動のねらいは、狭い意味での女性支援や育児支援ということではなく、それも含めて大学にかかわるすべての人が豊かに過ごせるよう支えることだと考えます。つまり、参画推進室の活動は、香川大学の構成員一人ひとりに関係すると同時に、私たち一人ひとりがアイデアを

出して創り上げていくものです。香大っこサポーターによる一時預かりの活動は、産声をあげたばかりゆえ、保険の問題や保育スペースの問題など、これから解決せねばならない問題があることも確かです。とはいえ、何事も形になるには一定の時間がかかるもの。課題を前向きに出し合いながら、育児支援と学生の学びを有機的に切り結べる可能性をもった「香大っこサポーター」活動を、少しずつ育てていきたいものです。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(教育学部女性研究者支援員 松本博雄)

「女性研究者研究活動支援事業」事業成果報告書(2013)より

\*\*\*\*\*

#### (4) 平成 25 年度 香大っこサポーター養成講座の開催

女性研究者支援モデル育成事業は平成 24 年度で終了した。しかし、男女共同参画推進室の事業は継続され、香大っこサポーターの養成と託児等の活動についても、継続事業として予算措置がなされた。平成 25 年度は、各キャンパスのサポーターの数の拡大を目指し、表 4 の取組を行った。まず、学内に向けて「香大っこサポーター」の活動内容を知ってもらうために「活動説明会」を計画した。リーダー的な存在を務めた学生にビデオで登場してもらい、取組のスライドと一緒に様子を紹介することにした。



説明会の広報については、各学部の 1・2 年生に向けて、男女共同参画推進室員の協力を得て、2000 枚募集チラシを配布した。

7 月 3 日に開催した「香大っこサポーター説明会」には今までの最多の 36 名の学生が参加した。内容は下記の通り。学生は先輩サポーターの体験談のビデオに興味を示し、香大っこサポーターのサマースクールや休日出勤時の託児の写真のスライドショーに集中し、活動に期待を持っている様子だった。そして、説明会の後、興味のある学生(34 名)が残り、引き続き、養成講座①実践編、養成講座②理論編を開催した。養成講座③～⑥については、個人の学習ペースに合わせて、受講希望者に DVD を貸出し、受講することとした。説明会と実践講座での乳幼児との触れ合いの体験は、サポーターをめざす学生のモチベーションをぐっと上げた様子で、その後、意欲的に DVD 学習を進める者が多かった。

また、平成 25 年度からサポーター希望の学生へ託児体験実習を 2 回計画実施した。先に述べたとおり、乳幼児との触れ合いを通じて、学生たちは豊かな学びを得る。本実習は、プロフェッショナルな民間の託児ボランティアの指導を受けながら、短時間の託児を安心して安全に経験し、託児体験を通して多くのことを学ぶことができた。

表4 説明会及び養成講座実施内容

平成25年 7月3日(水)	説明会① 概要説明 香大っこサポーターの活動と役割	男女共同参画推進室 長安コーディネーター	香大っこサポーターの目的について、概要を説明
	説明会② 活動紹介 先輩からのメッセージ・活動をスライドで紹介	香大っこサポーター 片岡みどり(看護) 西山 有希(経済)	香大っこサポーターとしてサマースクールで活躍した様子紹介
	養成講座① 実践編 子どもと楽しく安全に過ごすために	子育て広場を利用する地域の乳幼児5名とその保護者	実際の赤ちゃんとの短い時間触れ合う。実際の赤ちゃんの重さの人形も体験。
	養成講座② 理論編 子どもと楽しく安全に過ごすために	託児ボランティアあゆみ 梶ヶ谷真知子さん	子どもの一時預かりの際の危険防止・安全管理・遊び方のコツ

追加養成講座	養成講座③ (DVD 受講) 子どもの発達とあそび	香川大学教育学部 松本博雄 准教授	子どもの発達の基礎
	養成講座④ (DVD 受講) 大学研究者の仕事と研究そして暮らし	香川大学農学部 野村美加 准教授	女性研究者の研究活動の実際
	養成講座⑤ (DVD 受講) 共稼ぎ家庭のイクメンパパのとりくみ	香川医療生活協同組合 法人本部組合員活動部 岸本大助さん	男性の子育ての参画
	養成講座⑥ (DVD 受講) 子どもの病気と看護基礎知識	へいわこどもクリニック 病児保育はとぼぼ 増本正子さん 大江久海子さん	子どもの病気の基礎知識・病児保育について
	託児体験実習 8月7日・10月1日実施	託児ボランティアあゆみ 梶ヶ谷真知子さん	学内で託児実習実施

\*\*\*養成講座の様子と参加者の声\*\*\*

養成講座①実践編は、実際に7か月から3歳までの乳幼児が保護者と共に参加した。子ども達が講義室に入ってくると、参加した学生はひどく緊張した面持ちで、マットの上で遊ぶ子どもたちを遠巻きに佇んでいた。どうかかわっていいか、どう手出しをしたらいいかわからないといった様子であった。同行したお母さんたちの子どもたちの扱い方を見て、やっとこわごわ手を出しながら、下記のような感想を残している。



\*\*\*養成講座①実践編 参加者の感想\*\*\*

赤ちゃんたちのそばまで行ってみると、どう接すれば良いのかわからなくて、戸惑ってしまいました。そのことから、よく父親はあまり育児を手伝わないと言われるが「だだ、どう子どもに接すれば良いのかわからないだけなのでは?」と思いました。そして、いかに子どもたちに接するかもっと勉強しなければならないことを痛切に感じさせられました。(経済学部男子)

今回は、今まで活動されてきた写真を見たり、経験された先輩方の話を聞いたりして、より具体的に活動内容を知ることができました。実際に赤ちゃんを見ると、やっぱりとても可愛くて、託児ボランティアに対してより強い魅力を感じました。(法学部女子)





\*\*\* 託児体験実習 参加者の感想 \*\*\*

託児実習をしてみて、子どもって本当に元気だと思いました。思っていたよりも話かけてくれたり、笑ってくれたりして、かわいくてすごく癒されました。次の機会にはもっと周りを見れるようになりたいです。  
(教育学部女子)

1歳2か月の子を担当しました。初めはずっと泣いていてどうしようかなと思っていましたが、慣れてきたせいか、腕の中で泣き止んでくれた時はとてもうれしかったです。ごはんもたくさん食べてくれて、可愛いなおもいました。次回は、視野を広く持つことと、お母さん(お父さんに)予め話もよく聞いておくことを心がけたいとおもいます。ありがとうございました。  
(法学部女子)

9か月の女の子の担当になり、言葉による意志の疎通が出来なかったので、とても苦勞した。寝る前と寝た後(起き掛け)は、少しでも抱っこをやめると泣いてしまうので大変だった。母親の方が、「育児は体力が勝負」と言っていたのが印象的だった。  
(農学部女子)

子ども達との接し方がわからなかったが、子ども達の方から話しかけてくれたので、緊張がとけ、こちらからも積極的に関わることが出来たと思う。  
(経済学部男子)

小さな子とかかわる機会がない為、初めはどのように接していけばいいのかわからなかったが、子どもたちが話しかけてくれたり、話しかけたら何らかの反応があり、子どもたちと一緒に楽しい時間が過ごせたと思う。おむつを換えたり、食事の工夫(おにぎりを小さく握り直す)など貴重な体験もできた。今日の体験を仕事や子育てなどに役立てていきたい。  
(看護学科女子)

1歳の子2人とかわった。離乳食を食べさせるとき、食事に飽きてしまっていたので、他の学生があやしてくれて助かった。一人で食事やおしめを替えたりするのは大変で、お母さん方はいつも一人でされているのはすごいと思う。半年ぶりのランチをお母さんに楽しんでいただけて良かった。  
(教育学部女子)



実際に保育実習をやってみて、母親がどれだけ子育てに苦労しているのかがよく分かった。将来、子育てをすることになったら、任せっきりにせず、自分も子育てを手伝わなくてはいけないと思った。  
(経済学部男子)

### 3. 香大っこサポーターの活動

#### (1) 児童サマースクールの取組

平成23年度は、医学部ワーク・ライフ・バランス支援室からの希望で、8月18日19日医学部において、本学初の短期学童保育「サマースクール医学部探検隊」を実施した。平成22年度にボランティアを希望した教育学部の学生がリーダーとなり、登録した香大っこサポーターが中心になって運営した。2日間で49名の小学生が参加した。サークルの学生の協力を得て、延べ31名の学生が協力、充実した内容を提供することが出来た。また、平成24年度は、医学部において、児童サマースクール「宿題をやっつけよう」が5日間連続で開催された。子どもは9名の参加であったが、この際も、教育学部の大学院生をリーダーに、香大っこサポーターが交代で活動を支えた。

さらに、平成25年度は、初めて幸町キャンパスで児童サマースクール「幸町探検隊」を開催した。香大っこサポーター3年目の学生がリーダーとなり、香大っこサポーター19名、サークルから9名の学生が参加し運営した。小学生30名が参加し、博物館探検や物理実験、手品やチアリーディング等、豊かで楽しい内容を体験することが出来た。



図1 サマースクール開催案内

#### (2) 個別の託児の取組

男女共同参画推進室の一時保育室を利用して、個別の託児の利用があり、香大っこサポーターが対応した。講義の間の短時間の託児であったが、楽しく安全に過ごすことができた。香大っこサポーターが一人で幼児と過ごす際には、推進室内のスタッフの目の届く範囲で託児を行っている。緊急時に備えたサポーターの安全な運用に配慮が求められる。

#### (3) 休日出勤時の託児の取組

平成25年1月19日20日のセンター入試の託児では、初めて香大っこサポーターが、民間の託児ボランティアと協働で、休日出勤時の託児を担当した。2日間、4名の学生が交代で参加した。また、平成25年11月23日の推薦入試の託児でも、7名の学生が参加した。いずれも、長時間の託児となり、子どもたちの負担は大きいですが、学生が入れ替わり託児に加わる



ことで、楽しく活気のある託児になった。利用した子どもたちから、学生との触れ合いが楽しかったとの感想も寄せられている。

\*\*\*香川大学託児事業に参画して\*\*\*\*

「来週は“センター試験”の託児」と周りの人に話すと、「そういう時代になったのねえ」と全てのひとが受験生のためだと思ってしまうようです。私も含めてセンター試験を行うためにはその向こうに試験を支える人たちがいること、そしてその人たちにも家族があり、幼い子どもたちがいることを忘れてしまっています。

今年で2年目をむかえたセンター託児の子どもたちも1日目は5名・2日目は7名と増え、また託児を楽しみにしているお子さんもいてとても嬉しく思っています。今年は4名の学生さんの協力をお願いいたしました。また事前に子どもたちと長い時間一緒に過ごす心構えをお話しする機会をいただきました。

託児の場が“親の都合で仕方なく過ごす場”ではなく、“保育所や学校また家庭”とは違う別の楽しい場所になるように、センター試験の託児は朝7時から夜7時までの長い時間となるので子どもたち一人一人の生活リズムを大切にゆったりと過ごす場になるように、また“遊んであげる”ではなく“一緒に遊ぶ”そして自分自身も楽しむこととお話ししました。4名の学生さんは一人一人個性豊かで子どもたちも大喜びで一緒にほのぼのとした時間を過ごしていました。

ままごと・ブロック・プラレール・折り紙・・・小さな子どもが寝ている間には大きな子どもは工作やピタゴラスイッチをしたりと楽しい時間を過ごしました。少し早いお迎えのパパやママに「ええ～もう迎えにきたの？早すぎる！まだ遊ぶ」と託児者には最高の褒め言葉をいただきました。

(託児ボランティアあゆみ 梶ヶ谷真知子 代表)

「女性研究者研究活動支援事業」事業成果報告書(2013)より

\*\*\*\*

#### (4) 学会の託児の取組

平成25年9月3日～5日に本学で開催された生物環境工学会において、香大っこサポーターが学会託児を担当した。5か月児の託児を3日間行ったが、10名の学生が2人組になって担当した。託児ボランティア「あゆみ」の協力を得て、発達にあつたおもちゃや補助具を提供してもらい、朝9時～17時までの長時間の預かりを快適に過ごすことが出来た。学生は、初めて赤ちゃんにミルクを飲ませたり、おむつを替えたりと、緊張しながらも楽しんで、安全に託児に取り組むことが出来た。



#### (5) 香大っこサポーター活動報告会の開催

平成25年10月1日、初めて香大っこサポーター活動報告会を開催した。参加者が託児体験実習やサマースクール、学会の託児等の活動を生き生き語り合い、分かち合う機会となり、サポーターとしての苦労や成長ぶりを共に共有し合うことに繋がった。



## (6) 大学の子ども向けイベントの支援

平成 25 年 12 月 11 日、香川大学教育学部附属幼稚園の園児を招き、冬のまつりイルミネーション点灯式が開催された。本年は、香川大学の教職員の子どもたちにも案内を行い、6名の参加申し込みがあった。この際も、香大っこサポーターが参加する子どもたちのお世話を行った。今後は学内のイベントにおいても活躍の場を広げていきたいと計画している。

## 4. 成果と今後の展開

香大っこサポーターが結成されて3年が経過した。初めのうちは「何をしたいかわからず不安」だった学生たちが、子どもたちとの触れあいの経験を積み、自ら、子どもたちに積極的に関わっていく力をつけて行った。先輩たちの活躍の様子を見たり、民間サポーターの方から、子どもの尊厳を大切にする託児者としての配慮の仕方を教わったり、何より力いっぱい活動し「楽しかった」と振り返ったりする中で、多くを学び感じ取ることができた。そして、ハッとしたりヒヤリとしたりする体験も含めて、子どもたちに困らされたり、泣かれたりしながら、なんとかその場を乗り切る経験も積むことができた。

その成果をまとめるならば、次の3点があげられる。

1. 乳幼児や小学生との触れあいを通じて、大人としての責任を持って、判断し、解決していく経験を豊かに積むことができた。
2. 子育て中の保護者との交流によって、多様なロールモデルを得ることができた。
3. 子育ての支援者として、共感や関心を持って、地域との交流を広げることができた。

このような成果を得て、年々、香大っこサポーターの活動内容は広がり、自主的な活動場面が増えてきている。今後は、学内の男女共同参画推進への学生の担い手として、学内の組織へ参画し、発言する機会を持ってもらいたいと願っている。平成 25 年度に開催される男女共同参画学内シンポジウムでは、香大っこサポーターの取組発表を計画している。

## 5. まとめ

香大っこサポーターの育成については、民間託児ボランティア「あゆみ」の皆さん、特に、代表 梶ヶ谷真知子氏のご指導とご協力が大きな力となった。そして、常に、最新の情報を提供していただく中で、次第に、学生たちも地域の子育て支援の施策や情勢に興味を持って取組むようになった。さらに、平成 25 年度には、「地域子育て支援士（二種）（NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会認定）の資格を、香大っこサポーターの有志4名が取得するという成果にも繋がった。今後は、この資格を活かして、地域の子育て支援の場にも、若手のリーダーとして、積極的に参加し続けてほしいと願っている。

注

- 1) 託児ボランティア「あゆみ」は長年託児ボランティアとして活躍する民間団体。香川大学の休日出勤時の託児の委託を受ける。地域子育て支援拠点施設 子育て広場「ぶんぶん」を運営。
- 2) 香大っこサポーターの取組は平成 25 年 8 月 10 日の読売新聞の紙面でも取り上げられた。
- 3) 女性研究者研究活動支援事業 平成 22 年度文部科学省（旧）女性研究者支援モデル育成事業「香大発、地域ぐるみ女性研究者支援の高波を」が採択され、3年間取組んだ。

参考文献

香川大学男女共同参画推進室（2013）『女性研究者研究活動支援事業 事業成果報告書』  
 香川大学男女共同参画推進室（2013）「香川大学男女共同参画推進室ニュースレター vol.24、vol.25」

資料



香川大学男女共同参画推進室では平成22年度より学生による託児ボランティア登録を実施しています。34名の学生が登録しました。学内の短時間預かり保育や夏季休暇中の短期学童保育、休日出勤時などの託児等に協力いただける学生を募集します。イベントの前にご連絡しますので、ご都合の合う時間帯にボランティアとしてぜひ参加してください。

登録は簡単！事前にお申込みいただき、下記の説明会に参加すればOK！

あなたの力が必要です！ぜひ、ご登録をお願いします！

日程	時間	科目	担当
7月2日(水) 13:00~15:30	13:00~13:30	仕事も家庭も、安心して続けるために	男女共同参画推進室 長安コーディネーター
香大っこサポーター 説明会 北3号館1階 313教室	13:30~13:50	香大っこサポーターの活躍の様子	サポーター代表
	14:00~15:30	託児ボランティアってなに？ ～子どもと楽しく安全に通うために～	託児ボランティアあゆみ 橋かおる子先生
DVD受講 保育実習未経験者のみ	1	子どもの発達と遊び	香川大学教育学部 松本雅雄 准教授
	2	大学研究者の仕事と研究そして暮らし	香川大学農学部 野村典道 准教授
	3	共働き家庭のイクメンのとりくみ	香川県衛生生活協同組合 法人組合員活動部 岸本大助さん
	4	子どもの病気と看護基礎知識	へいのこどもクリニック 病児保育はなほほ 増本正子さん 大江久海子さん 協力託児ボランティア

活動予定 8月学校参観日(仮称)  
12月学校参観日  
(ライトアップ点灯式)  
1月センター入試  
適時 個別一時的かり  
\*活動に応じた有償ボランティアです。

登録は男女共同参画推進室  
(sankaku.room@kagawa.ac.jp)宛に  
お名前とご連絡先をご記入の上送信  
してください。後ほど詳細をお知らせ  
します。QRコードを読み込むと  
メールフォームが立ち上がります。



お問い合わせは **香川大学 男女共同参画推進室**  
 olive-heart  
 香町キャンパス北5号館1階 Tel.087-882-1055(内線1055)  
 http://www.kagawa-u.ac.jp/sankaku/

香大っこサポーター活躍レポート

平成23年8月18日・19日 児童サマースクール「医学部探検隊」



宿題のほかにババママ体験やドクター体験もしました。

平成24年8月20日～24日 児童サマースクール

「夏休みの宿題をやっつけよう！」



手品やアサ等サークルの協力のもと盛りだくさんのイベントがありました。

平成24年1月19日・20日 センター入試時の託児



平成24年12月14日 香大っ コルムでの託児



平成24年1月11日 フォロー講座も開催 (DVD受講も可)

資料 1 香大っこサポーター募集案内 (平成 25 年度版)



# 家庭と仕事 悩む女性研究者



「香大っこサポーター」の講習会で、子どもと遊ぶ学生たち（香川大学）

## 子育て支援学生一役

大学の女性研究者の仕事と子育ての両立支援に、学生が「役立ち」を試みながら注目されている。育児に関する講習や実習を積んだ学生が、主に学内で子どもを一時的に預かる取り組みで、学生にとっても将来の進路やライフスタイルを描くのに役立っているようだ。（辻阪光平）

「赤ちゃんのおむつを替えた」とがある人は？」  
香川大学（高松市）で7月上旬に開かれた「香大っこサポーター」の講習会。サポーターは、学生が乳児から小学生までの教職員の子どもを預かる有償ボランティア。現在、サポーターの登録者は卒業生を含む32人。保育園などが休みの土日を中心に、業務や研究などがある人は？」

内保育スペースが設けられたのを機に、2001年に発足した。この日は、1〜3年の男女36人が講師の指導でおむつの替え方などを学んだ。  
講習会には地域の親子も集まり、学生はおもちゃで遊ばせたり、実際に赤ちゃんを抱かせてもらったり。少子化対策について勉強しているという経済学部3年の花房伸自さんの2人は「実習の機会がないので、託児の経験を通して学びたかった。将来、結婚して子どもができた時の参考にもなれば」と言い、同3年の亀井里沙さん（21）も「先輩である先生たちに仕事観や育児との両立を尋ねたい」と話す。

## 触れ合い経験 就活にも

同室副室長で特任教授の長安めぐみさんは「子どもたちとの触れ合いは、学生たちの責任感やコミュニケーション能力を高め、就職活動にも生きるはず」と期待を寄せた。  
こうした取り組みの背景には、日本の女性研究者が主要国に比べて少ない現状がある。大学側は国の補助などを受け、出産や子育てなどで研究を諦めず働ける環境の整備を進めている。  
教職員の子育て支援に、早くから学生を活用したのが新潟大（新潟市）だ。08年度から、半年間の講習や実習を受けた学生が、休日

出勤する教員の子ども（3歳以下）を学内のプレイルームで預かる有償ボランティア「新大シッター」を養成。卒業生を含めて42人になる。  
担当の准教授、林はるみさんは「出産を機に退職した親がいるなど、仕事と家庭の両立は難しいという意識が学生には根強い」と指摘。シッター活動を通して、キャリアを断念せずに働く姿を身近に見て、「勇気が持てた」と話す学生もいるという。林さんは「子どもたちも年の近い学生との関わりは楽しそう」と話す。  
東京女子医大（東京都新宿区）は、大病院に勤める医師や看護師の子どもを保育園や小学校へ迎えに行ったり、送り届けた医師らの家で留守を預かったりするファミリーサポーターセンター事業の担い手に学生を活用しようと、今年初めて、「学生サポーター」養成講座を開催。5〜6月の8日間の研修に学生11人が修了し、7月から活動している。

### 女性研究者 日14% 英38%

文部科学省の2013年の白書によると、大学や研究機関で働く日本の女性研究者は約12万人。研究者全体に占める割合は14%で、英国38%、米国34%、韓国17%に比べて低い。  
男女共同参画学協会連絡会が07年に技

術者・研究者の男女約1万4000人を対象に行った調査では、女性研究者・技術者が少ない理由（複数回答）として女性が挙げた回答では、「家庭と仕事の両立が困難」（66%）が最多。「育児期間後の復帰が困難」（47%）、「業績評価で育児・介護等に対する配慮がない」（36%）と続き、育児との両立の難しさを訴える声が目立った。

（掲載許可済み）

資料2 読売新聞「子育て支援学生一役」掲載記事 平成25年8月10日



## 8.7 香大っこサポーター託児体験実習 報告



初めての預かり



にぎやかなごはん風景



初めて離乳食を体験



8月7日(水)「香大っこサポーター託児体験実習」を行いました。これは、香大っこサポーターの個別の託児に備えて、指導者が見守る中、実際の乳幼児の預かりを通して、具体的な託児技術の習得を目的としています。

託児ボランティアあゆみの代表 梶ヶ谷真知子さんとスタッフ3名の方がお手伝いくださる中、15名のサポーター希望者が参加しました。国分寺子育て広場の保護者の方々にご協力いただき、8か月から4歳までの10名の乳幼児が、香大っこサポーターの託児を実際に体験しました。実際に保護者からお預かりする時は、とても緊張した面持ちでした。お母さんを後追いで、急に泣き出す赤ちゃんや平気で楽しそうに遊んでいる子ども達に、サポーターは戸惑いながらも、一緒に楽しく過ごせるように頑張っていました。

お昼は、子どもたちと一緒にご飯を食べたり、初めて見る離乳食をおそろおそろ食べさせたりしました。そして、お昼寝の時間には、寝ぐずりす

る赤ちゃんを辛抱強くあやして、1時間以上もかけて寝かしつけました。『9か月の女の子の担当になり、言葉による意志の疎通が出来なかったのも、とても苦労した。寝る前と寝た後(起き掛け)は、少しでも抱っこをやめると泣いてしまうので大変だった。(農学部女子)』、『託児実習をしてみても、子どもって本当に元気だと思いました。思っていたよりも話かけてくれたり、笑ってくれたりして、かわいくてすごく癒されました。次の機会にはもっと周りを見られるようにしたいです。(教育学部女子)』と思いの感想を残していました。そして、『実際に保育実習をやってみて、母親がどれだけ子育てに苦労しているのかがよく分かった。将来、子育てをすることになったら、任せきりにせず、自分も子育てを手伝わなくてはいけないなと思った。(経済学部男子)』など、これからの人生にとってとても貴重な深い体験に繋がったようです。ご協力いただきました皆さん本当にありがとうございました。



### 【活躍紹介】学会託児に協力しました！

香川大学で9月3日～5日に開催された日本生物環境工学会において、5か月の赤ちゃんの託児に協力しました。サポーター10人で、交代でお預かりしました。初めての小さな赤ちゃんに戸惑いながらも、あやしたり、おしめを換えたり、ミルクをあげたり悪戦苦闘、貴重な経験になりました。かわいい笑顔に参加したみんなが癒されました。





## 8. 20 児童サマースクール「幸町探検隊」開催報告

8/20（火）、幸町キャンパスで児童サマースクールを開催し、教職員の子どもたちが30名参加しました。

幸町キャンパスならではの博物館での体験学習、おもしろ科学実験講座、理事さんと名刺交換、サークル体験など、盛りだくさんのプログラムで子どもたちは元気いっぱい楽しく過ごしました。

ボランティアでお手伝いいただいた香大っこサポーターのみなさん、サークル関係のみなさん、ありがとうございました。



### 博物館体験学習「さぬきのため池をそーっとのぞいてみよう」



夏休みに、親がかりで子どもに体験してもらえたり、教えてやれることには限界があり、今回のように、多くのプロの方の適したアドバイスや施設に入れて本当に良い経験ができました。子どもも触発されたようで、知らない世界が覗けてよかったです。

### 学食でランチ



香大っこサポーターに迎えられ、子どもたちは、午前中、開校式と博物館「さぬきのため池をそーっとのぞいてみよう」に参加しました。工学部の山中稔先生とゼミ生による、ため池を実際に体感するワークショップでした。暑い日差しの中で、ため池の土手を再現して水をためてみたり、重たい石を使ってみんなで土を固めてみたりしました。先人の知恵と苦勞を体感することができました。



### ○サマースクール全体の感想 (17名の保護者が回答)

大変良かった	15
良かった	2



## 香大っこサポーター活動報告会&託児実習 報告

10月1日(火)に香大っこサポーター活動報告会と託児体験追加実習を実施しました。

香大っこサポーター活動報告会では「香大っこサポーター養成講座」、「託児体験実習」、「児童サマースクール」、「学会個別託児」で活動したサポーターから報告がありました。子どもたちとの接し方の戸惑いが時間と経験を積むことで解消され、子どもたちと積極的にかかわっていく様子がサポーターの報告から伺えました。託児ボランティアあゆみの代表 梶ヶ谷さんはそれぞれの活動に対してご助言をくださり、特に泣いている赤ちゃんを辛抱強くあやしていたサポーターの根気強さに感心されていました。

今回の託児体験実習も国分寺子育て広場「ぶんぶん」の保護者の方々にご協力いただき、6か月から2歳までの6名の乳幼児の託児を実施しました。

保護者からお預かりするときは、やや緊張した面持ちでしたが、前回の託児体験実習に参加したサポーターが主体となって保護者からの預かりをスムーズに

行っていました。お母さんたちが部屋から出ていくと空気が一変。後追いで泣き出す赤ちゃん、ハイハイしてたくさんのおもちゃに目移りする赤ちゃん、机の下に隠れて出てこないお子さんなど、サポーターたちは困惑した表情を見せながらも、子どもたちに楽しい時間を過ごしてもらおうと奮闘していました。

託児終了後はお母さん方を交えて託児の報告を行いました。お母さん方から下記のような感想があり、少しの間だけ子育てから解放され、リフレッシュした様子でお子さんたちを迎えていました。

頑張ったサポーターの皆さん、この体験を生かして休日出勤時の託児、短時間の預かりでのご活躍を期待しています。



### 預けた保護者の感想

今振り替えると、同時に子供を預けて、ママ達と一緒にランチタイムを過ごす事が出来たから、心配になる事が無かったのだと思います。

もし子供を預けて一人で食事をしたり、買い物をして過ごしていたら、こんなにリフレッシュは出来なかっただろうと思います。

実を言うと私、子どもを預けるのは手放して喜べる状態ではなく、夫が「見とくから映画に行ってくれば」と言ってもなかなかいけなかったりします。1回目の託児参加のときはやっぱりずっと気になって、頭から離れなかったのですが、1回目のときよくしていただいて、2回目は少し安心して、忘れていた時間が長くなったような気がします。ありがとうございました。

これからお互いに少しずつ離れる練習をしようと思います。

4

娘が産まれて、これまでに託児を利用するどころか、実家等の家族に預けたことも無かったので、大学生の皆さんに預けるまでは正直なところ、不安が大きかったです。不安というのは、預ける事に対してというよりは、娘が皆さんに迷惑をかけないだろうか...という面です。

娘は、我が家は主人が単身赴任中なこともあり、殆どの時間を私と二人で過ごしているため、知らない人の抱っこが苦手なようです。何とか「人見知りしない子」に育てたいという思いもあり、今回のようなイベント事には積極的に参加するようにしています。

しかし、不安は的中でした。託児会場までのご機嫌だったのに、お姉さんに抱っこしてもらった途端に泣き出してしまっ...。何だか申し訳ない気持ちでしたが、「授乳もしたし、お腹はいっぱいはずだから大丈夫！」と言い聞かせ、ママ達とのランチに行かせて頂きました。娘の泣き顔を見て教室を後にしたので、ランチ中も娘の事が気になるかも...と思ったのですが、意外とそんな事もなく、忘れるとまではいきませんが、しっかりママランチ会を楽しむ事が出来ました。ママ達との会話はやっぱり子供の話題でしたが(笑)、じっくり会話に集中出来ましたし、ママ同士の絆も深まったように思います。